

夢を持ち目標つくって

城南中で「フェアプレイスクール」

新宮市

日本スポーツ協会は11月22日、新宮市立城南中学校(中田善夫校長、生徒181人)で「2019年度フェアプレイスクール」を開いた。新体操選手として活躍し、北京、ロンドンオリンピックにも出場した田中琴乃さんが来校し、ミニゲームや体験談を通してフェアプレイの大切さなどを伝えた。

「フェアプレイスクール」は、世界で活躍した元アスリートが子どもたちにフェアプレイの精神を伝えようと実施している。小、中学校などを訪問して講義やスポーツ体験授業に取り組んでおり、今年度は全国10校で開催。同校では6日に事前の学習会(ワークシopp)が行われた。この日はフェアプレイ

応援団を務めるAKB48チーム8から永野芹佳さんもゲストで訪れた。各学年を代表して内野江理さん(1年)、谷口清華さん(2年)、出会悠斗君(3年)が作文を発表した後、田中さんは「どの作文にも、それぞれの思いが込められていた。スポーツの世界には『礼に始まり礼に終わる』との言葉がある。それが伝わるすてきな作品でした」と講評。

自身が新体操と出会い、始めたきっかけや経験、オリンピックを目指した経緯などを語り「夢を持って毎日努力をし続けることで、気付いた時には大きな成長を遂げられていることもある。皆さんも夢を持って日々、目標をつくってほしい。自分には何ができるのか、何をしなければならぬのか、何をすべきなのかを考えながら前に進んでください」と呼び掛けた。

講義後には1年生63人を対象にフェアプレイ体験授業が行われた。永野さんも参加し、生徒たちは田中さんに教わりながらボールを使って新体操選手がけがをしないための準備運動に取り組み、ミニゲームを交えて楽しく学んだ。

尾仲陽夏さん(1年)は「スポーツの世界だけでなく、私生活の中でもフェアプレイが大切だと分かりました。普段は新体操を経験することがないので、体を動かしてみても貴重な楽しい時間でした」と話していた。

(榮本康人)



オリンピックを目指した経緯などを語る田中琴乃さん
=11月22日、新宮市立城南中学校

